

お茶の水女子大学
個人活動評価結果報告書



目次

はじめに	1 頁
個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要	2 頁
文教育学部の個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要	2 頁
理学部の個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要	6 頁
生活科学部の個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要	8 頁
人間文化研究科の個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要	10 頁
センター部の個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要	12 頁

はじめに

国立大学法人お茶の水女子大学は本学の教育、研究の現状を把握し、改善すべきところは改善し、その結果を公表し、社会に対する説明責任や国費の投資に対する説明責務を果たすことを目的とし、第1期中期目標・中期計画期間中に「法人化後3年終了時に自己評価を行う」ことを中期計画に掲げた。その計画を達成するために平成17年1月に「国立大学法人お茶の水女子大学評価指針」、「同部局別評価実施要綱」、「同部局別評価実施要領」、「同個人活動評価要綱」及び「同個人活動評価実施要領」を設定し、部局別自己点検・自己評価活動や個人別自己点検活動に取り組むこととした。平成17年度よりまず教員の教育・研究の現状を把握するために教員の教育研究活動状況をWebにより入力し点数化するデータ・ベースソフトウェアを導入し、毎年個人の教育、研究、社会貢献、大学運営・経営に関する約100項目の入力を全教員に義務付けた。そして平成18年度に国立大学法人お茶の水女子大学個人活動評価要綱及び同実施要領に基づき209名の教授、助教授、常勤講師、リサーチフェローが各自の教育、研究、社会貢献、大学の運営・経営における活動を自己点検・自己評価した。24名の外部評価委員を含む各部局ごとに設けられた「部局別評価委員会」の本会議を平成18年12月から平成19年1月にかけて実施した際に、入力された各教員の自己評価書と代表的論文の別刷りにより、24名の外部評価委員により個人別の自己評価の結果のメタ評価を受けた。外部評価委員の個人別意見は各教員にフィードバックした。

以下にその概要を総合評価室で取りまとめたものを記す。取りまとめに当たっては外部評価委員からいただいたコメント（文章）を総合評価室で変更することはせずそのまま用いた。しかしながら個人が特定できるような記述はできるだけ避けるため、学科、講座単位の評価結果とし公表する次第である。この個人別自己点検・評価が、本学の教員の教育・研究の改善に資するとともに、本学教員の教育研究成果の社会に対する説明責任を果たすことになれば幸いである。またこの活動を通じて本学の持つ人的リソースを把握できたことも成果のひとつであり、今後の本学の計画に資するところとなると期待している。最後に本学の自己点検・自己評価活動に多忙の折、協力をいただいた外部評価委員の先生方に感謝申し上げる次第である。

総合評価室長 大塚 譲

文教育学部の個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要

人文科学科

人文科学科所属の専任教員については、外部評価委員から、いずれも当該分野において各教員の研究が価値の高いものとして認められている。たとえば、哲学分野では、論理的問いへの深い眼差しを含む、認識論・存在論的な新しい思索を著した著書が、朝日・毎日はじめ各紙に取り上げられるなど、広く注目を浴びている。これは、社会貢献としても、多大・卓抜した功績があったと認められている。また倫理学分野でも、日本倫理思想史の著書が朝日新聞年末書評欄で「今年の三冊」の一冊に挙げられ、当該学界で高い評価を得た研究業績としても、社会貢献としても大きな成果であった。インド美術史分野では、わが国の仏教美術分野において学術面で優れた水準の業績が評価された。奈良国立博物館から講演に招かれたことも、社会・文化面への貢献において秀でていとされている。

歴史学分野では、魏晋南北朝史研究で日本の指導的な立場にあって、研究をリードするとともに後進の研究をサポートした研究が高い評価を得た。また、中世社会史研究では、ユニークな対象に鋭利な分析を行い、研究をリードしたことが評価され、奈良県の通史を描いたものも、地域史の面でも活躍が目立つと指摘されている。フランス官僚制研究では、他の地域の王権との比較研究の上で多くの知見を提供したと評価された。古代日本と唐との交流の問題を扱い、研究者のみならず一般にも多くの関心を喚起したのも、新たな研究として注目されている。イスラム史研究では、新たな方向性を示した点、日本近世史では、文化の大衆化の問題を多角的に扱った問題作が今後の議論の土台を築いた点で評価されている。

地理学分野では、地域研究・開発研究の分野で、わが国を代表する学会誌に掲載された論文が、優秀な水準にある業績として高く評価された。地理モデリングと都市空間の研究では、やはり代表的な学会誌に掲載された論文が高く評価され、また同じ教員の別の論文も、わが国の地理モデリング分野が世界的にみても高い研究の質を有することを実証したとされた。気候学分野と社会地理学分野の研究では、地理学のみならず関連の学術分野にも貢献して、広く学術分野で評価を受けるものと認められた。日本地理学会での学会発表も高い評価を受けるものとされた。

その他、学会での活動も多く評価された。たとえば、日本倫理学会第 57 回大会でテーマ発表者・パネリストを勤めた教員や、中東・イスラム関係の学会を切り盛りして国際的な活動を行っている点が高く評価された教員、日仏歴史学会の幹事や理事を務めて国際交流に貢献した教員、実存思想協会・日本ヤスパース協会・比較思想学会等々の理事を続けて務め、わが国のヤスパース研究・教育の第一人者として活躍する教員などがある。

本学を研究の拠点とした研究活動の成果も、大きな評価を得ている。「魅力ある大学院教育イニシアティブ：＜対話と深化＞の次世代女性リーダーの育成」では、外国でのジョイント教育・シンポジウムを開催して本学の社会貢献を促進し、院生・学生の教育・研究へと還元している。

これらの研究成果は大学院生の研究指導にあたって十分な指導力を発揮するものと認められ、また学部学生への授業にも役立つものと認められている。

言語文化学科

言語文化学科所属の専任教員については、外部評価委員から、いずれも当該分野におい

て各教員の研究が価値の高いものとして認められている。英語圏・欧州言語文化および応用言語学では、日本英文学会の権威ある学会誌「英文学研究」の巻頭に掲載された論文や、フランス近現代文学の分野において、学術面で卓越した水準にある業績が評価された。またシェイクスピア研究では、シェイクスピア学会での口頭発表を文章化した論考が、文学にかぎらず表象文化におよぼす、スケールの大きな研究と評価されている。フランス思想の分野では、現代フランス思想分野において学術面で卓越した水準にある業績が認められた。また、別の教員においては、17世紀フランス神秘思想の研究についての予測が、評価委員から大いに期待され、英米文学とともにフランス文学・思想の研究も学生には貴重な分野領域であると指摘されている。アメリカの演劇研究では、公的な文化政策と私的な芸術表現あるいは表象文化とのせめぎ合いが、大変興味あるテーマとされた。英語学では、同時通訳の問題を応用言語学的視座から広く考察した論文が、多くのサンプルと適切な協力者を得ての意義深い考察と評価されている。これは国際電気通信基礎技術研究所からの受託研究に基づいて行われた研究であり、それに対して、学外との提携協力研究はさらに盛んにされることを期待するとされた。また、英語学の生成文法・文法理論分野では、国際学会での高等発表をもとにした論考が、平明な事例を用い、先行文献を踏襲しながら、緻密な論が展開されるきわめてすぐれた論文と評価された。

中国語分野では、佐藤保名誉教授の退官記念論集が、本学出身者の共同研究の成果で、一般読者にも理解できるよう工夫された17編を収めており、「お茶大中文」の実力を世に示すすぐれた論集と評価された。2003年度に中国のフェミニズム文芸批評の開拓者戴錦華氏を招き行った夜間セミナーは、女子大にふさわしい先進的な企画であると高く評価されている。このセミナーにも関連する論考は、歴史的かつ現代的な論考で、読者に考察を促す啓発力に富むとされた。中国古典分野の担当教員は、いわゆる説文学、書誌学、考証学は「お茶大中文」の顕著な伝統であり、その伝統をつぐ研究者であるとの評価を得た。

日本語・日本文学では、上代文学における研究が、単に幅が広いだけでなく、それぞれの論が実に緻密であると指摘された。近代文学では、宮沢賢治に関わる著述が多く、その点が学界においても評価されているとされる。和歌文学研究では、作品に詳しいだけでなく研究成果にも通暁し、周辺の学問にも目配りをしていて時代的にも学際的にも非常に広がりがある研究がなされていると評価されている。日本文学分野においては複数の教員が、高校教科書の編集、『日本女性文学大事典』や『現代詩大辞典』の編集に携わった成果を認められている。なお、近世文学分野では、学内で副学長など、学外で文部科学省の専門委員を務め運営面で大いに活躍し多忙であるにもかかわらず、研究面でも業績を残しているとの指摘もあり、厳しい研究・教育環境のなかでの努力を評価するむきもあった。

日本語教育では、NPO法人こどもLAMPの発足・進展に中心的役割を担い、学習支援を具体化し、現代日本のニーズに応じた社会貢献を院生、院修了生とともに続けている活動が評価された。研究の面でも、先駆的研究として今後の研究に示唆を与える卓越した水準と認められた。また、日本語教室におけるコースデザインの重要性を明らかにし、「共生を目指す相互学習の場」の具体例を示した研究が、示唆に富む優れたものと評価された。

これらの研究成果は大学院生の研究指導にあたって十分な指導力を発揮するものと認められ、内外の学会で意欲的に発信される教員の研究姿勢は、学生たちにもよい刺激となると指摘された。

人間社会科学科

心理学コース

先端的な心理学研究諸領域の課題を的確に捉え、それを丹念に手堅い実験を重ねて検証している点で高く評価される。その成果が国際学会等での発表・招待講演、学会誌等の査読論文として数多く公開されるなど、極めて生産性の高い研究活動が評価される。テレビ等のマスメディアをめぐる心理学的研究にユニークな成果をもって貢献しており、社会的貢献、学会活動も極めて活発である。専攻長を始め、学務上の貢献も高く、教育、研究、社会的領域での活発な活動は、大学にとっても大きな財産として評価できる。極めて生産性の高い研究活動は、学生・院生に対する刺激としても作用し、大学院生の研究領域の細分化と社会人学生の入学など、多様な現状に対する木目細かな対応に優れ、高い成果（学位取得者）をあげている。

教育科学コース

考古学・博物館学分野の学際的な研究（研究活動から啓蒙活動にいたる幅広い活躍）、学力低下問題・ニート問題・生涯教育・教育方法などの教育をめぐる社会問題に対する取り組みとその成果は学術的にも実践的にも優れた成果をあげている。日本教育史研究の領域で代表的な研究者により『近代日本教育法集成』の編纂などの着実な研究が進められており、学術的・社会的に意義のある優れたものである。国際教育協力と開発教育分野への貢献も特筆される。全般に、実証研究の手堅さにその特徴と卓越性があり、学術的かつ実践的に優れた成果が、研究と教育現実・教育実践を確かに繋いでいる。研究成果は教育行政、開発教育の援助政策の現場でも活用されている。21世紀COEプログラムにおける教育研究推進とその成果は社会的・学術的に貴重な貢献をするものと期待される。博物館協会会長、教育史学会理事・事務局長、教育関連学会の編集委員、外務省・文部科学省・JICA・JBIC等の国際教育協力関連の各種委員、国際教育開発関連学会の編集委員等、学界全体に対する貢献にも優れている。啓蒙活動、社会的評価、新聞・月刊雑誌等のメディアへの積極的な寄稿とコメンテータとしての頻繁な登用、生涯学習研究の成果の実践的な社会貢献の高さを含め、社会貢献に秀でている。総務機構総合評価室長、文教育学部長、大学評価・部局別評価・個人活動状況評価の設計、教員活動状況データベースの構築、セクシュアル・ハラスメント等人権委員会委員長、附属中学校長、附属学校部長、大学資料委員会委員、ジェンダー研究センター運営委員、大学院研究教育委員会委員、国際交流・国際協力プログラム等、大学運営への貢献度も高い。教育面・社会貢献面での高いニーズに応えるべく、その充実に貴重な貢献をしていると評価される。

応用社会学コース

福祉社会学・社会政策研究・社会理論の各分野で日本を代表する研究者による研究成果を擁する。複眼的なアプローチ、丹念なフィールドワーク、理論と計量分析を兼ね備えた実証性が高く評価される。その研究成果は学部生・大学院生に対する卓越した教育研究指導に結実している。社会調査士資格関連科目の整備に尽力し、また研究成果を反映した優れた授業展開が学部生・大学院生に対して成されている。学外においては日本社会学会理事等の要職を務め、学界への貢献度の高さが評価される。

芸術・表現行動学科

舞踊教育学コース

全国 150 大学を対象とする「大学における課外スポーツ活動に関する実態調査」の統括・実施、舞踊学・身体運動科学・健康科学における学際的かつ先端的分析手法の開発と応用実践は学術的・社会的貢献の高い研究成果として評価される。また、身体動作のデジタル分析のための LabanXML の開発は、動作分析学及び情報処理学分野の研究として国際的評価を得た優秀な水準のものである。光学式・磁気式併用のモーションキャプチャー装置による動作計測に基づくバリ舞踊の分析は、学際的な成果として高く評価される。全国大学体育連合会理事長、日本学校体育研究連合会理事長として、幼稚園から高等教育まで、体育授業研究を全国規模で指導した社会貢献は高く評価される。舞踊動作に関する研究成果の日英両語での新聞報道、スポーツマネジメント分野の研究成果に基づく生涯スポーツ振興に対する貢献など、研究成果の社会貢献の高さが評価される。体育教育の実践、学生の健康増進に対する意識の向上と指導など、研究成果は学部授業ならびに大学院生の研究指導において十分な成果を発揮していると評価される。「スポーツ健康実習」の通年必修化に際しての授業の立案・実施・運営・評価への貢献が高く評価される。

音楽表現コース

「環境空間に応じた歌声」、オーケストラ作品の国際的な発表、日本のことばと西洋音楽的な語法との関係に関する研究、ピアノをめぐる音楽実践と理論的省察などの各成果は、音楽の実技・実践（声楽家、作曲家、演奏家としての活動）と理論的な音楽学分野の研究を関連させつつ並存させている点にその教育研究活動としての特色があり、卓説したものと評価される。国際的な視野に立つ実践と研究活動は、音楽界と音楽学界の双方に対して高い貢献を成しているだけでなく、社会一般への貢献にも優れている。こうした特色が学生の指導にも実践・理論の両面での優れた効果をもたらしている。

理学部の個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要

数学科

構成員の研究成果が学部、大学院教育によく生かされていると外部評価委員により認められた。業績の引用数による比較は数学の専門分野間の違いが大きいため限られた意味しかないと考えつつも、WEB幾何学、漸近解析学、リーマン幾何学、代数体のNumber Knotの研究はよく引用されていることが認められると評価された。他に漸近解析学の基本的業績の果たした役割、可積分系の研究の他大学若手研究者への影響、ポアンカレ予想に関連した数学界での活動も確認された。学内運営への構成員の貢献も大きいですが、幅広い社会貢献の中ではとくに、日本学術振興会の学術システム研究センター専門調査委員としての理学全体における研究サポート活動が客観的に卓越していると外部評価委員に評価された。また他に教室構成員の著作活動等による社会活動もあるが、大学としての評価はこれからの課題として残されている。

物理学科

教員の研究成果、実績を踏まえて、先端の研究活動への積極的参加を、学部生、大学院生に促すことにより、高等教育の充実が図られている。多くの研究室で学生との共同研究が行われ、学生に成果発表の機会を多く与える等により女子学生の育成に努力している点が外部評価委員により高く評価された。以下に個別の研究の評価に手短かにふれる。ソフトマター物理の研究、特に多孔性固体の破壊の普遍的性質の実験的および理論的研究は、卓越した国際共同研究により進められており、画期的業績への発展が期待される。超伝導体におけるスピン揺らぎの非可約構造の非等方性の発見を報告した論文も国際的に注目されている。他にも、ランダム系の磁性の理論的研究、ソフトマターの秩序形成の実験的研究、弦理論、高分子構造、界面物性の研究、量子観測論による宇宙論、量子系の緩和現象、水和した水の構造と機能の研究も注目されていると評価を受けた。

化学科

最新の研究成果、学会の動向などを踏まえた学部の授業、大学院学生の研究指導が外部評価委員により認められた。研究面では、溶液中における分子内電荷移動反応速度の溶液化学、糖結合タンパク質レクチンの構造と機能等、糖鎖化学に関する生化学、キク科植物に関する天然有機化学、ラジカル反応を用いた含フッ素化合物の合成等の有機合成化学、有機分子の立体選択的合成、非平衡現象の実験と理論を組み合わせた研究、X線解析を主とした構造生物学、液晶物質の物理化学、金属鎖体の溶媒による可逆的色変化の金属鎖体化学、電気化学を基盤とした分析化学や表面化学の各専門分野でそれぞれ卓越した水準の業績を上げていると外部評価委員に評価された。

生物学科

生化学における脂質の機能と構造に関する研究、とくに脂質代謝の生理的機能、脂質のメタボローム解析、またストレス応答と脂質合成との関係の研究が外部評価委員の極めて高い評価を受けた。細胞のストレス応答メカニズム、脂質性メディエーター、LPA受容体の立体構造の解明、環状ホスファチジン酸の抗がん作用等の一連の研究も卓越していると評価された。ショウジョウバエを用いた集団遺伝学、進化学の研究、特に嗅覚と味覚に焦点

をあてた適応進化の研究、また発生生物学での細胞同期、減数分裂、中心体の働き等の新しい知見をもたらした研究もそれぞれ卓越していると外部評価委員に評価された。ほかに、植物生理学における二次代謝発現調節に関する研究、動物生理学と宇宙生物学、オルガネラの遺伝子の研究、動物細胞の細胞接着、植物代謝生物学、植物分子細胞生物学の各分野ですぐれた研究が行われている。生命科学の啓蒙活動も社会に大きな影響を与えている。

情報科学科

データベース分野を専門とする構成員は、教育、研究、学会活動、社会貢献のいずれにおいても、その活動はまったく申し分ないと外部評価委員に評価された。ネットワークコンピューティング分野の若手構成員の研究も文句のないものであり、日本のこの分野の若手の中核的な存在として、教育面でも活力のある研究室を維持しているとの高い評価を受けた。情報科学科ではまた、コンピューターグラフィックスの第一線の研究活動も展開され、多くの研究成果がIEEE Transaction に発表されている。この研究の応用指向のテーマ設定が外部評価委員により高く評価された。ヒューマンインターフェイス、ユビキタスコンピューティング分野でも一流の研究が行われており、実世界から研究テーマを見出している点が評価された。また、情報科学科における数学基礎教育は学生によく受け入れられており、この点が外部評価委員により高く評価された。

生活科学部の個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要

食物栄養学科

各教員が専門分野の観点から学部および大学院の指導を担当し、大学の運営に貢献していることを評価している。専門分野における各教員の研究業績が適切に評価されており、食品化学分野の香りに関する論文を優秀で国際的に評価が高いとし、食品加工分野における変色に関する研究はこの分野における卓越した水準を有するとしている。調理科学分野における米の基礎的研究も優秀であり、栄養化学分野における脂質やビタミン C の代謝に関する研究は学術的に高いレベルと評価している。大学の運営においては、理事・副学長、大学院部局化 WG メンバー、各種委員会委員等を務め、学会活動にあっては各教員が所属学会での重要な位置を占めている。また農林水産省関連委員、内閣府関連委員、栄養管理報告書モデル作成などの活動により社会への貢献度も高いとしている。

人間・環境科学科

学科内の各研究室ごとに活発な研究がなされている。専任教員の研究活動に関し外部評価委員から洗浄の基礎的研究として洗浄科学分野において優秀な水準、電気的手法による定数測定として基礎物理学分野において価値がある、自然分類学特に年代学分野の研究として第一級の価値がある、高分子ゲル分野として非常に価値が高い、医用・福祉工学分野での機器研究開発の重要性、年代測定分野での高い評価といったコメントがなされた。これらの研究成果は大学院学生の研究指導に当たって十分な指導能力を発揮し、また最新の研究成果を踏まえて学部学生への授業にも役立つものと認められる。また日常に近いテーマから現代人社会の将来進むべき方向性についての指針を与えるものまで研究テーマごとに高い評価がなされている。

人間生活学科

発達臨床心理学講座

講座内の各教員の研究活動が活発で価値あるものとして認めている。発達臨床心理学分野において学術面で卓越していること、臨床心理分野において優秀な水準であること、教育・心理的対応に関する研究で発達臨床分野としては優秀な水準であること、保育学分野の研究として優れていること、学校臨床心理学分野および保育臨床分野の研究として価値あるものと認めている。市民講座や公立病院のスーパーバイザー、法務省矯正研修所や家庭裁判所の調査官研修講師、国家公務員試験委員、自治体の教育委員会の研修に係わるなど社会への貢献度も高い。これらの研究成果は大学院学生の研究指導、学会の動向などを踏まえた学部学生への授業にも役立つものとしている。

生活社会学講座

講座内の各教員の研究活動が優れたものであると評価している。家族法学分野の教員はドメスティック・バイオレンス問題に関してわが国第一人者であるとし、その卓越性から山川菊江学術奨励賞および平塚らいてう賞が授与されている。生活経済学分野において生活創造という新しい概念で日本経済との関連を考えるという新展開が評価されている。政治思想分野の中でドイツ啓蒙思想とドイツ観念論の政治思想史研究も高く評価されている。

家族社会学および福祉分野での研究が優秀であり、卓越しているとされている。公共経済学分野では望ましい医療制度設計を目指していることが評価されている。実績に基づいて地方自治体の関連審議会、消費経済審議会など政府の主要審議会、市民講座など社会への貢献度も高い。大学運営・貢献面では学部長、教育研究評議員、財務室長など大学の運営に大きく貢献した。

生活文化学講座

各教員の研究活動について高く評価している。ヨーロッパ服飾史分野において価値ある研究という評価や日本の服飾文化についての優れた見解に将来が期待され、また比較文化分野の研究としては卓越した水準のものと評価された業績はサントリー学芸賞、ジャポニスム学会賞を受賞している。民俗学分野においても優秀な水準との評価がなされた。映像メディア研究会や茶道文化学会での講演、街並み保存に関する民俗調査など社会・文化面への貢献も秀でており、関連領域の学術分野でも高い評価をうけるものと認められている。これらの研究成果は大学院学生の研究指導に当たって十分な指導能力を発揮するものと期待され、学部学生への授業に役立つものと考えられている。

人間文化研究科の個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要

国際日本学専攻

専攻の特質である国際的視野を有し、幅広い学問領域にわたって日本学研究が行われている。専任教員の活動に関し外部評価委員から、平安時代の私家集の校注や表現技法の研究論文が高い評価を受けている。また、個人作家の全集の編集を通しての戦後文学史における顕著な業績や、注目度の高い創作評論などが高く評価されている。さらに、日本近代経済史分野として卓越した水準にある論文、心理言語学分野での優れた論文などが高い評価を受けている。この他にも教員相互の活発な研究体制が採られており、それに基づく高度な研究成果が挙げられている。

人間発達科学

活発な外部資金獲得や多様な社会貢献などを行いつつ、教員相互の研究協力体制のもと、高水準の研究成果が挙げられている。専任教員の活動に関し外部評価委員から、発達臨床心理学分野での学術的に卓越した論文や臨床心理学分野での優秀な論文が高く評価されている。また、教育思想および教育思想史の分野で注目すべき視点を有している点で高く評価できる論文や、道徳性研究において高い評価を受けている論文がある。

比較社会文化学専攻

専攻の特質である、社会科学と人文科学の両分野にわたる教員相互の研究がスムーズに行われる体制がとられ、高度な研究成果が上げられている。専任教員の活動に関し外部評価委員から、社会学およびジェンダー論分野での秀逸な研究業績、学術誌の書評で取り上げられるような西欧中世社会史の分野での卓越した論文などが高い評価を受けている。また、アメリカ文学・文化研究での高い研究活性を反映した数多くの優れた邦訳書および批評論文や、学術表彰の対象となった芸術・装飾分野研究での卓越した論文がある。

ジェンダー学際研究専攻

専攻内に留まらない教員相互の研究協力体制が構築されており、活発な研究がなされている。専任教員の活動に関し、内閣府調査資料に基づく、労働経済学分野における興味深い内容の論文について外部評価委員から高く評価されている。

人間環境科学

専攻内における各講座ごとに活発な研究がなされている。専任教員の活動に関し外部評価委員から、細胞運動分野における新技術開発を表した優れた論文や、糖鎖生化学分野において卓越した論文、および植物生理学分野の研究で特定有用物質の代謝に関する優れた業績に対し、高い評価がなされている。さらに、高分子化学分野における卓越した論文、衛生環境工学分野において水処理技術についての優秀な水準の論文、食品化学分野において食品香気成分に関する卓越し国際的にも評価の高い論文等が発表されている。また、遺伝カウンセラー養成に直接反映される研究が行われている点も評価されている。

複合領域科学

国際シンポジウムの開催と構成員全員による年間研究報告書の作成を定期的に行っており、研究の質の確保が適切になされている。専任教員の活動に関し外部評価委員から、素粒子物理学分野で国際的に注目されている論文、物性物理学分野で国際的に注目されている論文、計算科学分野において卓越した水準にある論文に高い評価がなされている。また、数学・物理・コンピューターを組み合わせた複合的研究が活発になされている点も評価されている。

センター部の個人別活動状況の外部評価委員による評価の概要

センター部に属する教員は40名で、13センターあるが、構成員が少数であるためセンターごとに記載すると個人が特定できるので研究センター、理系サービスセンター、文系サービスセンターの3グループごとに記載した。

研究センター（ジェンダー研究センター、生活環境研究センター、子供発達教育研究センター）

アジアのジェンダー学の拠点となる着実な努力とその成果は高く評価できる。保育者の再学習の研修プログラムの構成と実証の意義は大きく高く評価する。学内保育所運営委員、寄附講座の運営、ヒト遺伝子解析のための倫理委員会の指針作りなどの大学の運営に貢献している。大学評価・学位授与機構の学位審査委員、文部科学省の幼児教育関係の委員、日本栄養・食糧学会の理事などを務め社会貢献もしている。

教員の一人は教育の臨床社会学的研究の代表的研究者と評価された。研究業績では、発達臨床分野において学術面で卓越した水準のもの、脳科学と行動発達との関連を研究した最先端の研究、国際的に評価の高い雑誌に掲載され優れた好酸性単細胞緑藻と重金属耐性に関する論文、新しい電気泳動法を考案した卓越した内容で評価が高い論文などと評価された。また2000年から75報の論文が掲載されるなど研究活動は活発であり、なかでもポリフェノールや中鎖脂肪酸の研究においては国際的に最先端であると評価を受けた。

サービスセンター理系（ライフワールド・ウォッチセンター、湾岸生物教育研究センター、サイエンス&エデュケーションセンター、総合情報処理センター、ラジオアイソトープ実験センター、保健管理センター）

学内のDNA実験安全委員会委員長としての貢献が評価された。研究活動では放射線安全管理学会の奨励賞を受賞した14Cと35Sを弁別した卓越した水準にある論文、吸入ステロイド薬の効果についての優れた業績、化学物質管理に関する重要な内容を含んだ研究報告、進化多様性の優れた研究、ウニの細胞間相互作用のメカニズムの解明の優れた論文、減数分裂やアポトーシスの極めて優れた研究、代謝速度のスケール則の注目されている研究、理科教育学研究で注目されているイオン学習の適時性についての研究などと評価された。また多くの時間がサービス業務に取られていると推測するが研究業績が必要との指摘もあった。

サービスセンター文系（比較日本学研究センター、国際教育センター、開発途上国女子教育協力センター、語学センター）

教育面で留学生の口頭表現の能力向上に努めたことが評価された。社会貢献では大学間交流協定の締結に努め国際的な貢献が高く評価された。研究では「討論における「じゃ」の考察」の優れた研究、卓越した「多義語としての格助詞デの意味構造と習得課程」や「教育価値観の異文化間比較－日本人教師と中国人学生、韓国人学生、日本人学生との違い」の研究と評価された。また「定冠詞と不定冠詞の表出的機能について」は外部評価者から非常に関心を持たれたテーマで研究と教育のバランスのとれたものとして高く評価された。「日本語児における数量『全部』の獲得について」は興味深い研究と評された。

外部評価委員名簿

東京大学大学院人文社会系研究科教授 竹内 整一
放送大学客員教授 五味文彦
日本大学文理学部地理学科教授 高阪 宏行
都留文科大学元学長・同名誉教授 久保木 哲夫
東洋文庫研究員、日本中国学会理事長 丸尾 常喜
松山東雲女子大学長 別府 恵子
千葉大学文学部長・教授 西村 靖敬
放送大学客員教授 上野田 鶴子
大阪大学大学院人間科学研究科 社会環境学講座教授 友枝 敏雄
国際基督教大学教授 藤田 英典
文京学院大学 柏木 恵子
日本女子体育大学名誉教授 山川 純
大阪大学名誉教授 山口 修
アジア経済研究所 佐藤 寛

東京大学大学院数理科学研究科教授 岡本 和夫
国際基督教大学理学科教授 北原 和夫
東京工業大学名誉教授 大橋 裕二
東京大学大学院教授 浅島 誠
電気通信大学長 益田 隆司

日本女子大学家政学部教授 グュエン・ヴァン・チュエン
独立行政法人国立科学博物館人類研究部人類第二研究室長 溝口 優司
東京大学大学院教育学研究科教授 亀口 憲治
日本女子大学家政学部教授 時子山 ひろみ
静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科長 深井 晃子

以上